

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和5年5月8日

八戸市長 熊谷 雄一 殿

提出者

住 所 八戸市築港街一丁目1番地4号

氏 名 マルヨ水産(株)

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0178-33-1161



廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	マルヨ水産株式会社 本社工場 桔梗野工場
事業場の所在地	八戸市築港街1-1-4 八戸市桔梗野工業団地3-3-30
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	(092) 水産食品製造業
② 事業の規模	113億円/年
③ 従業員数	380人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1

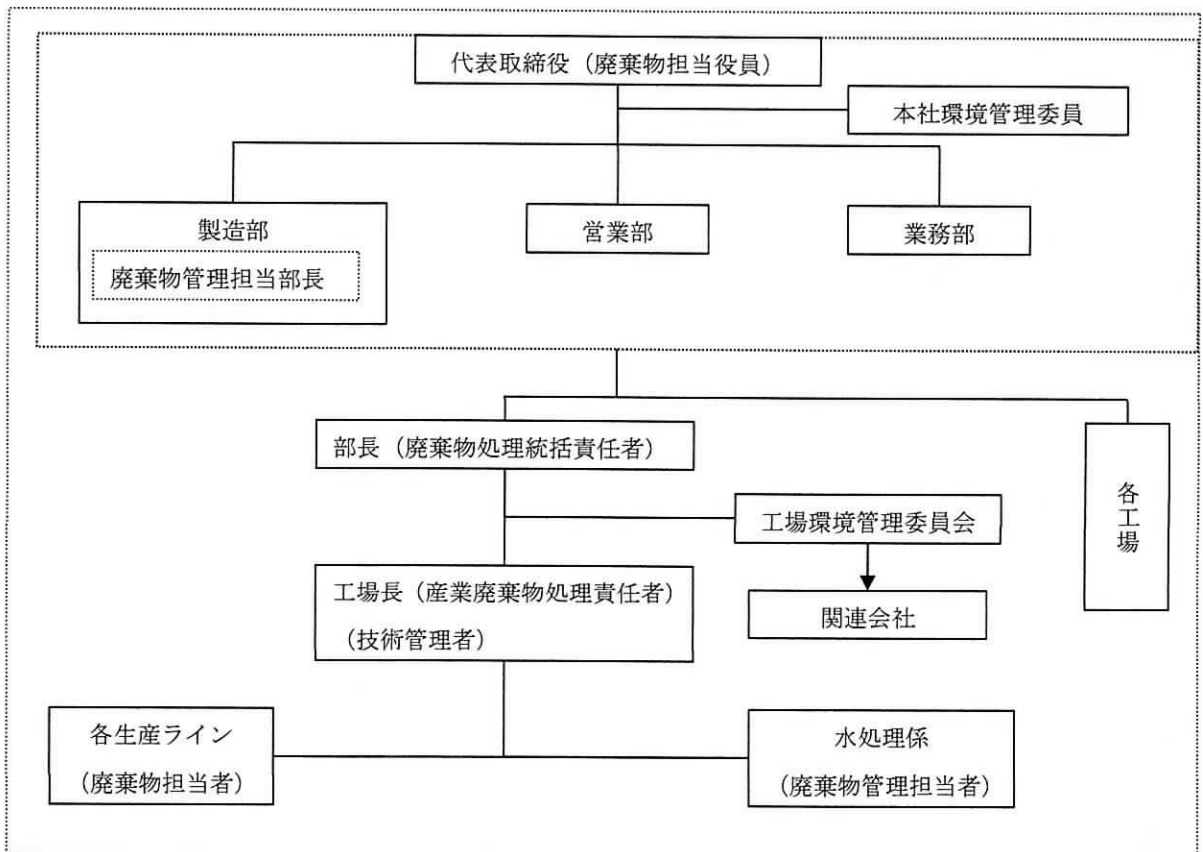
（日本工業規格A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

責任者及び管理組織図

統括責任者	所 属:本社工場
廃棄物担当	組織名:製造部 製造課 水処理係 組織人数:3人
役割	工場環境管理委員会 ○廃棄物処理に関する検討 廃棄物の発生抑制、適正処理の推進、計画的な廃棄物の管理運営を行う上で必要な事項を検討する。 ・委員長一部長 ・委員一関連部署部課長
	廃棄物処理統括責任者 ○廃棄物処理方針の策定 ○工場の廃棄物管理規程の策定・改廃 ○廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認
	廃棄物管理担当者 ○廃棄物処理計画の作成 ○廃棄物管理状況の把握と改善策の検討 ○産業廃棄物処理施設の運転・維持管理状況の把握 ○処理業者の選定及び管理 ○委託契約の締結 ○監督官庁への各種報告 ○社員、関連会社に対する教育・啓発 ○その他関係する事項

廃棄物管理組織



(第3面) ①

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項				
①現状【前年度（令和4年度）実績】				
産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類	木くず	動植物性残さ (貝殻残さ)
排出量	7660.77t	22.93 t	0 t	21.78 t
(これまでに実施した取組) 発生抑制を考慮した製造方法				
②計画【目標】				
産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類	木くず	動植物性残さ (貝殻残さ)
排出量	13500 t	40 t	10 t	50 t
(今後実施する予定の取組) 発生抑制を考慮したさらなる、製造方法の検討				
産業廃棄物の分別に関する事項				
①現状				
(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 汚泥、廃プラスチック類（木くず、金属くず〔混合物〕）、木くず、金属くず、蛍光管（ガラス、金属くず）、動植物性残さ（貝殻残さ）				
②計画				
(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 従業員への分別の周知徹底				

(第3面) ②

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状【前年度（令和4年度）実績】				
産業廃棄物の種類	廃プラスチック類木くず 金属くず〔混合物〕	廃プラ類、金属くず ガラス、コンクリート、陶磁器くず（蛍光管、HIDランプ 水銀使用製品産廃）	廃プラスチック類・金属くず	廃プラ類、金属くずガラス、 コンクリート、陶磁器くず （蛍光管、HIDランプ）
排出量	1.953 t	0.195 t	0t	0t
（これまでに実施した取組） 発生抑制を考慮した製造方法				
②計画【目標】				
産業廃棄物の種類	廃プラスチック類木くず 金属くず〔混合物〕	廃プラ類、金属くず ガラス、コンクリート、陶磁器くず（蛍光管、HIDランプ 水銀使用製品産廃）	廃プラスチック類・金属くず	廃プラ類、金属くずガラス、 コンクリート、陶磁器くず （蛍光管、HIDランプ 廃）
排出量	0t	0.2t	0t	0t
（今後実施する予定の取組） 発生抑制を考慮したさらなる、製造方法の検討				
産業廃棄物の分別に関する事項				
①現状				
（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 汚泥、廃プラスチック類（木くず、金属くず〔混合物〕）、木くず、金属くず、蛍光管（ガラス、金属くず）、動植物性残さ（貝殻残さ）、				
②計画				
（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 従業員への分別の周知徹底				

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状【前年度（ - 年度）実績】			
産業廃棄物の種類	-	-	-
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	-	-	-
(これまでに実施した取組)			
-			
②計画【目標】			
産業廃棄物の種類	-	-	-
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	-	-	-
(今後実施する予定の取組)			
-			

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状【前年度（令和4年度）実績】			
産業廃棄物の種類	汚泥	-	-
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	-	-	-
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	6482.19 t	-	-
(これまでに実施した取組)			
脱水機の定期的な洗浄			
②計画【目標】			
産業廃棄物の種類	汚泥	-	-
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	-	-	-
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	11750 t	-	-
(今後実施する予定の取組)			
汚泥目詰まり防止の為の配管の効率化			

(第5面) ①

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状【前年度（ - 年度）実績】			
産業廃棄物の種類	-	-	-
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	-	-	-
(これまでに実施した取組)			
-			
②計画【目標】			
産業廃棄物の種類	-	-	-
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	-	-	-
(今後実施する予定の取組)			
-			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状【前年度（令和4年度）実績】				
産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類	木くず	動植物性残さ (貝殻残さ)
全処理委託量	1178.58 t	22.93 t	0 t	21.78 t
優良認定処理業者への 処理委託量	-	-	-	-
再生利用業者への 処理委託量	1172.93 t	-	-	-
認定熱回収業者への 処理委託量	-	-	-	-
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	5.65 t	22.93 t	0 t	21.78 t
(これまでに実施した取組)				
処理業者との適正な委託契約の締結 マニフェスト管理の徹底				

(第5面) ②

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状【前年度（ - 年度）実績】			
産業廃棄物の種類	-	-	-
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	-	-	-
(これまでに実施した取組)			
-			
②計画【目標】			
産業廃棄物の種類	-	-	-
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	-	-	-
(今後実施する予定の取組)			
-			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状【前年度（令和4年度）実績】				
産業廃棄物の種類	廃プラスチック類木くず、金属くず〔混合物〕	廃プラ類、金属くずガラス、コンクリート、陶磁器くず（蛍光管、HIDランプ水銀使用製品産廃）	廃プラスチック類・金属くず	廃プラ類、金属くずガラス、コンクリート、陶磁器くず（蛍光管、HIDランプ）
全処理委託量	1.953 t	0.195 t	0 t	0t
優良認定処理業者への処理委託量	-	-	-	-
再生利用業者への処理委託量	-	-	-	-
認定熱回収業者への処理委託量	-	-	-	-
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	1.953 t	-	-	-

(第6面) ①

②計画【目標】				
産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類	木くず	動植物性残さ (貝殻残さ)
全処理委託量	1810 t	40 t	10 t	50 t
優良認定処理業者への 処理委託量	-	-	-	-
再生利用業者への 処理委託量	1800 t	-	-	-
認定熱回収業者への 処理委託量	-	-	-	-
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	10 t	40 t	10 t	50 t
(今後実施する予定の取組) 定期的な廃棄物の性状分析				
※事務処理欄				

(第6面) ②

②計画【目標】				
産業廃棄物の種類	廃プラスチック類木くず、金属くず〔混合物〕	廃プラ類、金属くずガラス、コンクリート、陶磁器くず（蛍光管、HIDランプ水銀使用製品産廃）	廃プラスチック類・金属くず	廃プラ類、金属くずガラス、コンクリート、陶磁器くず（蛍光管、HIDランプ）
全処理委託量	0t	0.2t	0t	0t
優良認定処理業者への処理委託量	-	-	-	-
再生利用業者への処理委託量	-	-	-	-
認定熱回収業者への処理委託量	-	-	-	-
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t	-	-	-
(今後実施する予定の取組) 定期的な廃棄物の性状分析				
※事務処理欄				

(第7面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

